



学校の森づくり ～2024年 学校保全林プロジェクト実例集～

Non-Profit Corporation Silva
非営利型一般社団法人Silva

川下 都志子



Silvaは、「次の世代に続く、持続可能な緑の復元」という理念のもと、土地本来の植物による森づくりや緑化活動を行う非営利型法人です。多くの専門家と協力し樹木・土壌など多角的なアプローチから研究・改善を行うなど、緑化のプロフェッショナルとして日々活動しています。

【Silva構成役員】

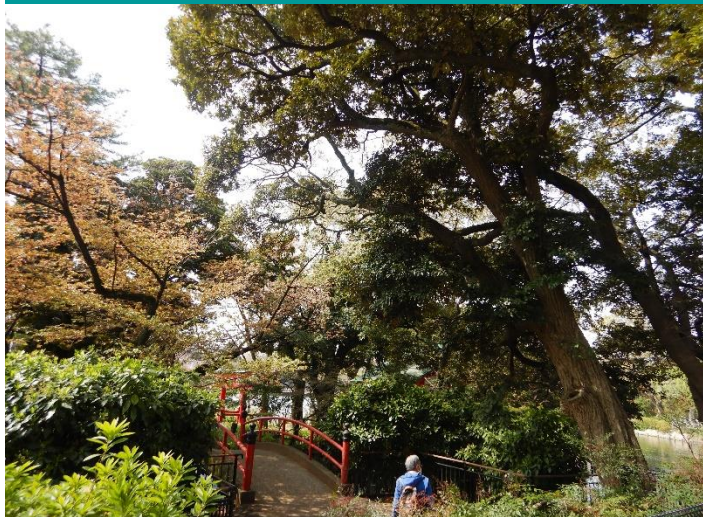
永世名誉顧問	宮脇 昭	横浜国立大学名誉教授	博士(理学)
永世名誉顧問	青木 淳一	横浜国立大学名誉教授	博士(農学)
名誉顧問	奥田 重俊	横浜国立大学名誉教授	博士(理学)
顧問	今井 伸夫	東京農業大学 准教授	博士(林学)
	平野 侑	信州大学非常勤研究員	博士(農学)
相談役	青木 正篤	元(公社)国土緑化推進機構	常務理事
	藤原 一繪	横浜国立大学名誉教授	博士(理学)
代表理事	川下 都志子	植生管理士 日環創管	第16004号
理事	中村 幸人	東京農業大学名誉教授	博士(理学)
理事	植田 優哉	森林再生指導員	

教育機関との連携事例





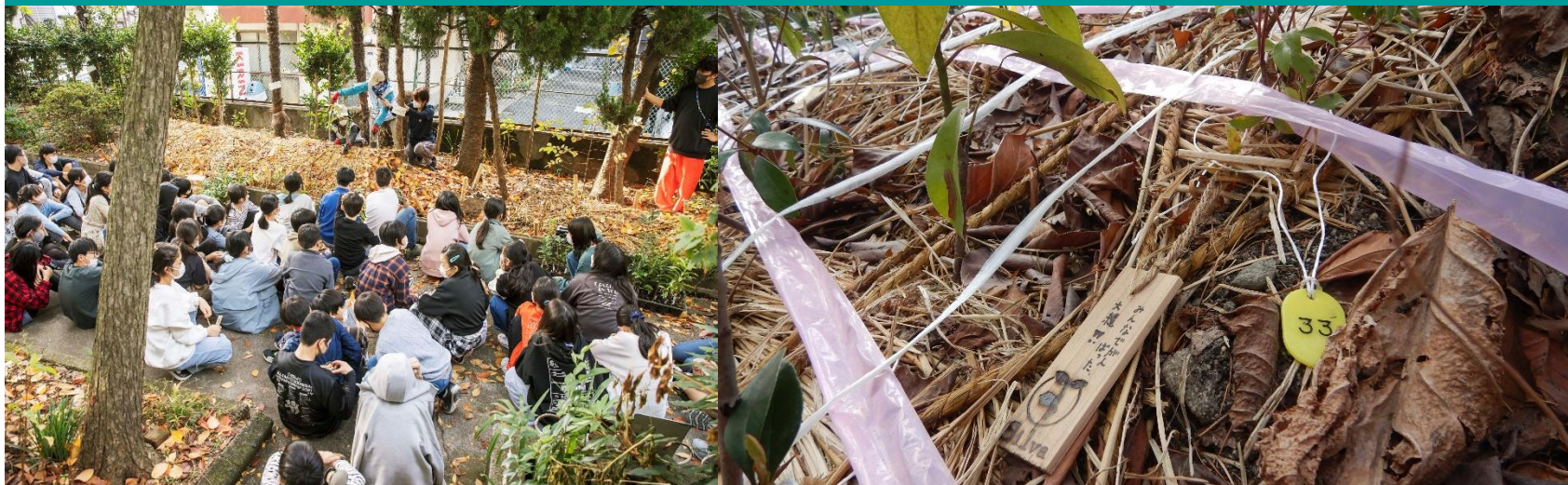
教育機関の場合も必ず、周辺の植生調査を実施し植生シナリオを策定



A 森の講座：①機能と役割/②森の再生方法/③土壌の回復方法/④メンテナンス方法



B 土壌づくり：児童に身近な落ち葉を集めてもらい土壌づくりの材料として活用



C 植樹祭とナンバリング&調査枠づくり



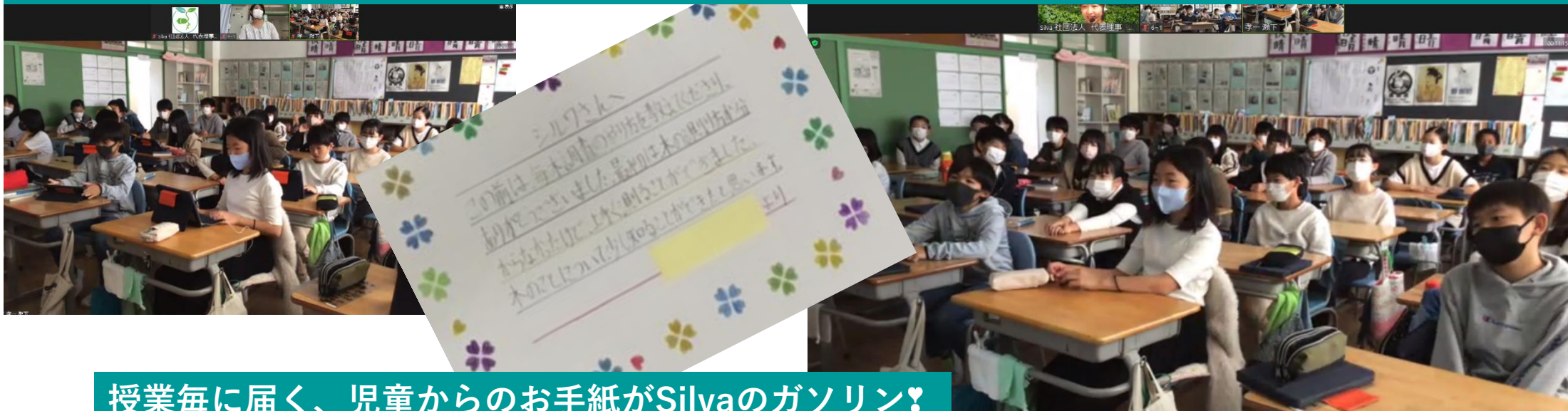
D 毎木調査：炭素固定量を計測する/調査データ管理



E 育樹は、『風の草刈り』で草のいのちも生かし、多様性を追求



F 学校内での知名度向上と保護に児童のアイデアを募集するため、地域と校内の植生観察



授業毎に届く、児童からのお手紙がSilvaのガンリン！

「ぼくの将来の夢は自然を守るネイチャーガイドになることです。
京陽小で学んだ自然の大切さを観光客に伝えたいです。」

今年度145周年を迎えた本校は、140周年の際に、川下様の指導のもと「まんぷくの森」づくりを行いました。Silvaの熱いメッセージが子どもたちの心に響き、今年度も6年生がこの活動を引継いでいます。京陽小の卒業生が、森づくりへの自分なりの考え方をもって巣立ってくれることを誇りに思います。

品川区立京陽小学校 校長 岩田 環先生のお言葉

H 朝礼にオンラインを駆使！朝一番に森づくりへの協力要請や次の作業行程に必要なプロセスの共有



2018年11月10日

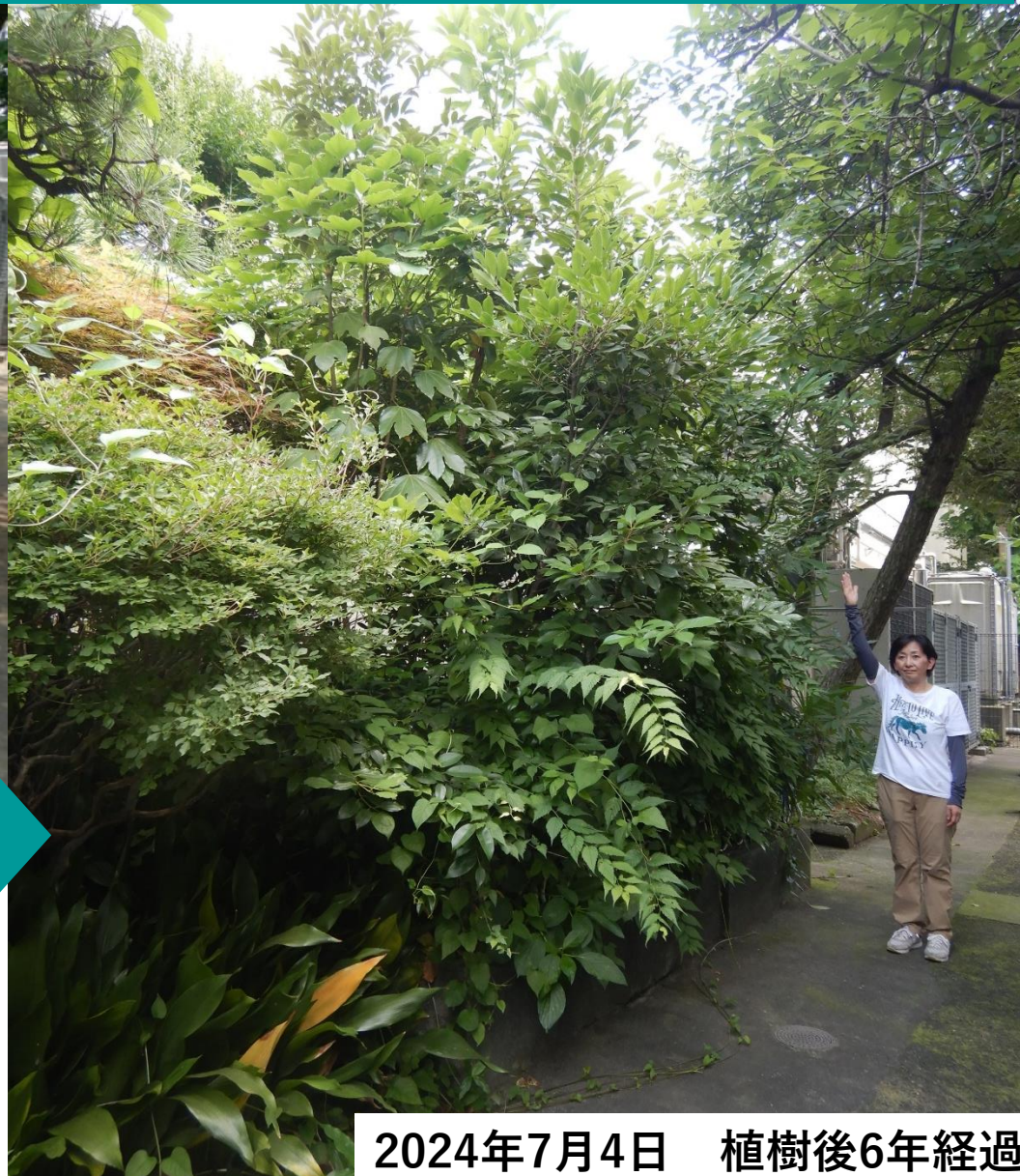
何を植えても枯れてしまう花壇 植樹前



2024年7月4日 植樹後6年経過（低木中心）



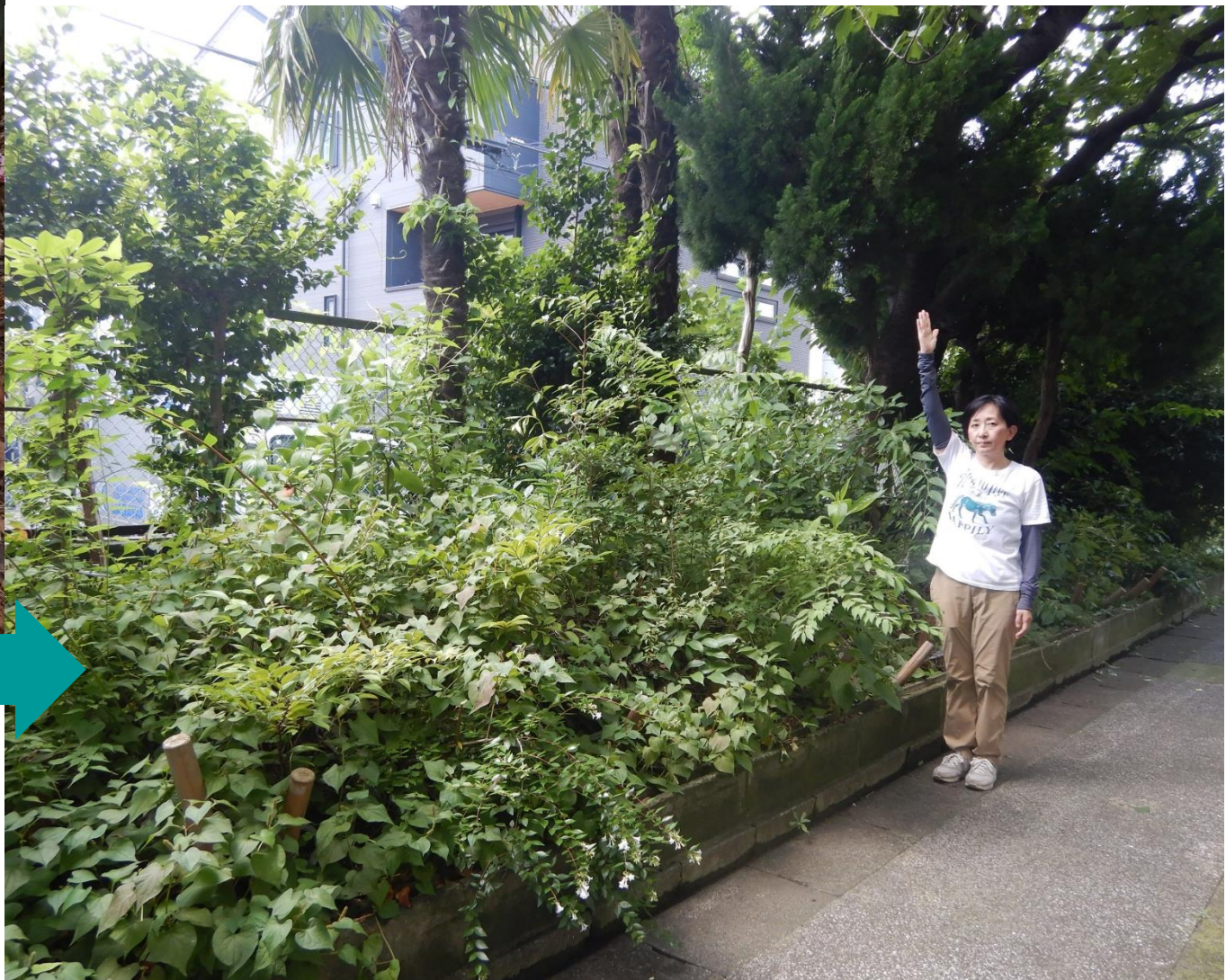
2018年11月10日
他の花壇は、森を再生



2024年7月4日 植樹後6年経過



2022年11月22日 植樹を実施



2024年7月4日 植樹後1年4ヶ月経過



2021年9月8日施工前



2022年2月11日施工後



2022年3月1日植樹後



2024年6月11日植樹後
2年2ヶ月経過



2022年3月1日経年変化と植樹祭の様子

児童アイデアのキャラクターを石碑に



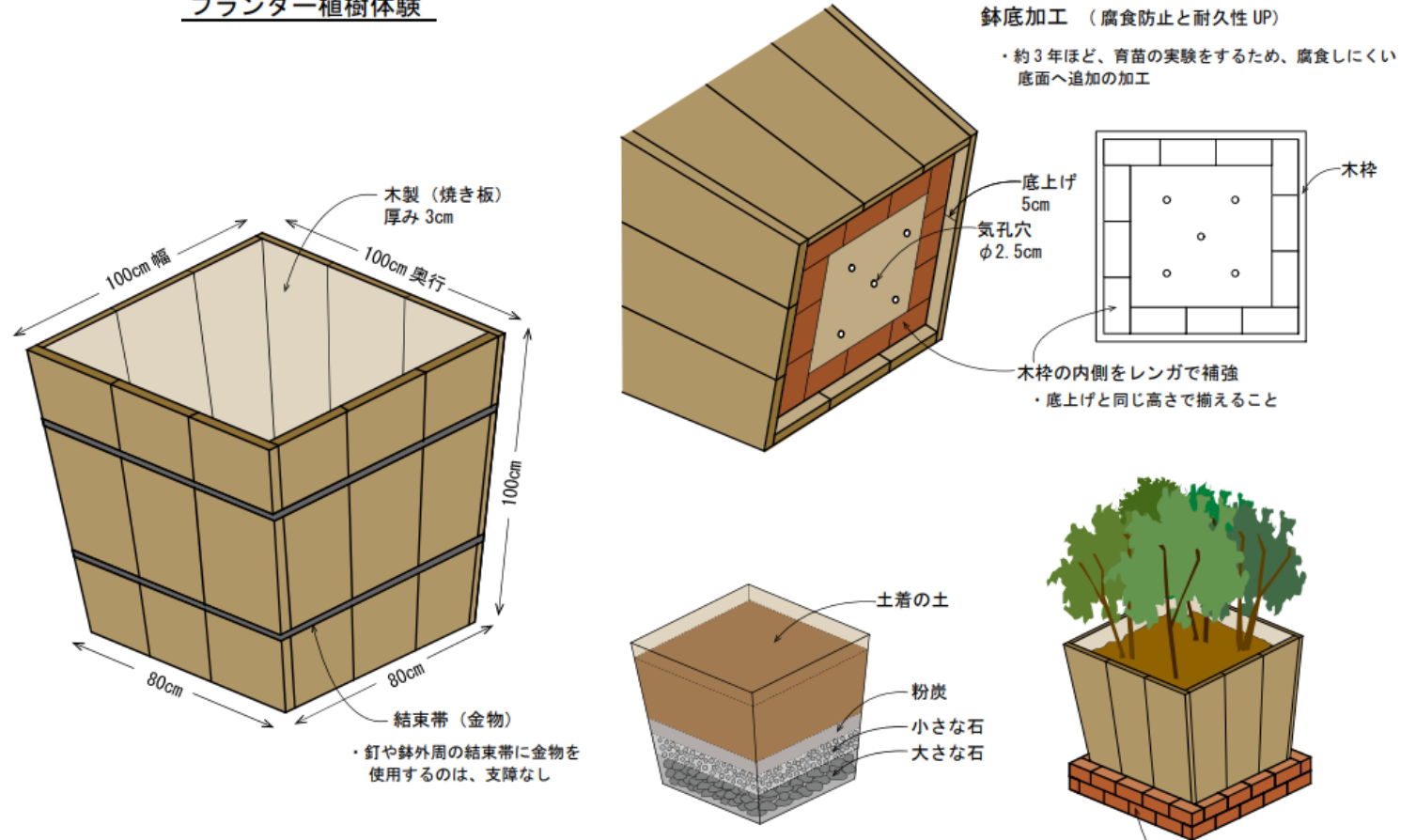
卒業生も通りがかりに
お手伝いしてくれます。



東京都の某小学校事例 森のたね

2022年 東急建設株式会社ご依頼の学校の森づくりでは、校舎建て替えのため、校庭が使えない状況。工事中は、大型プランターで育み、校舎が新設された際に、校庭へプランターを埋める構想。

プランター植樹体験



<移植時のパターン>

- ・根の支持力が順調な場合、移植時に鉢の側面のみ剥がす。
- ・鉢のままの移植時には、結束帯は取り外す。

転倒防止ブロックは、コンクリートブロック以外にレンガや木組み等の通気確保ができる素材が可能な場合は、検討



プランター実物

東急建設株式会社で製作いただいたオリジナルプランターの概要

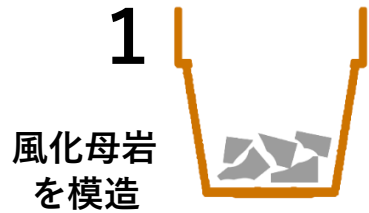
東京都の某小学校事例 森のたね



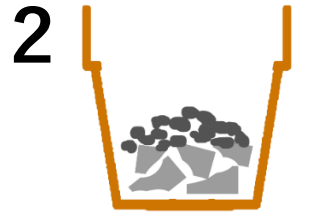
①土の層の下ごしらえ【A】

刈草と粒炭を剣スコップで混ぜる→

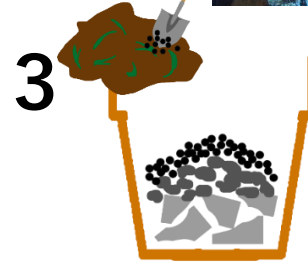
②小さな自然の山を植木鉢で再現する



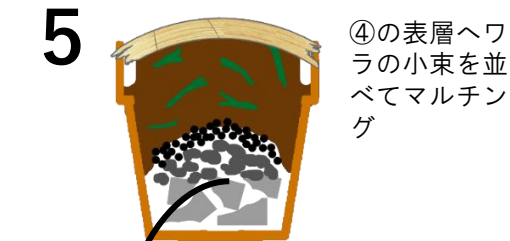
砕けたコンクリート廃材



小さめの底石を入れる



粒炭を入れる



<ワラの平面図>



ワラ縄

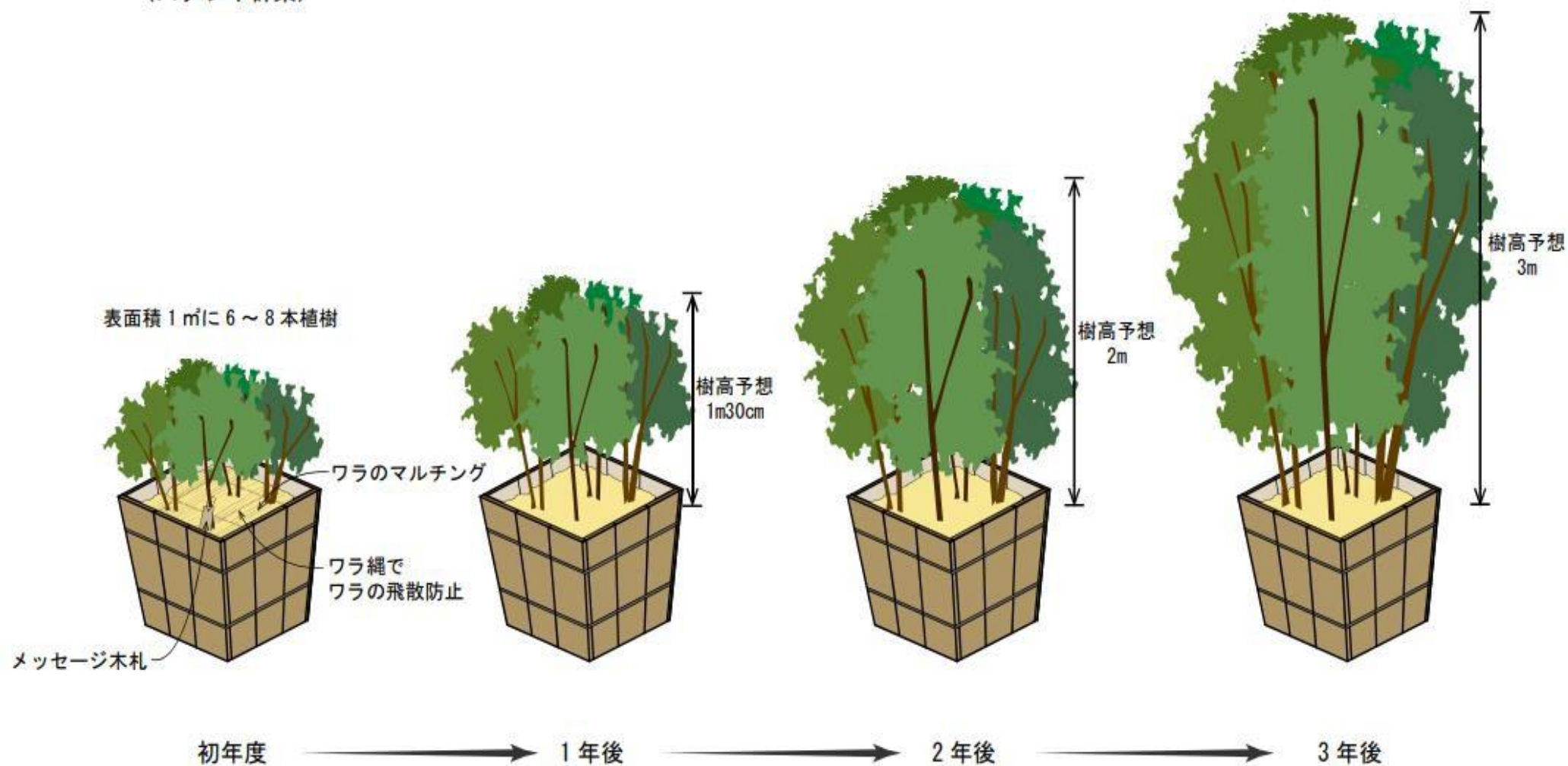
ワラの飛散防止

やがて大きな森となる『森のたね』

土台となる土づくり手順

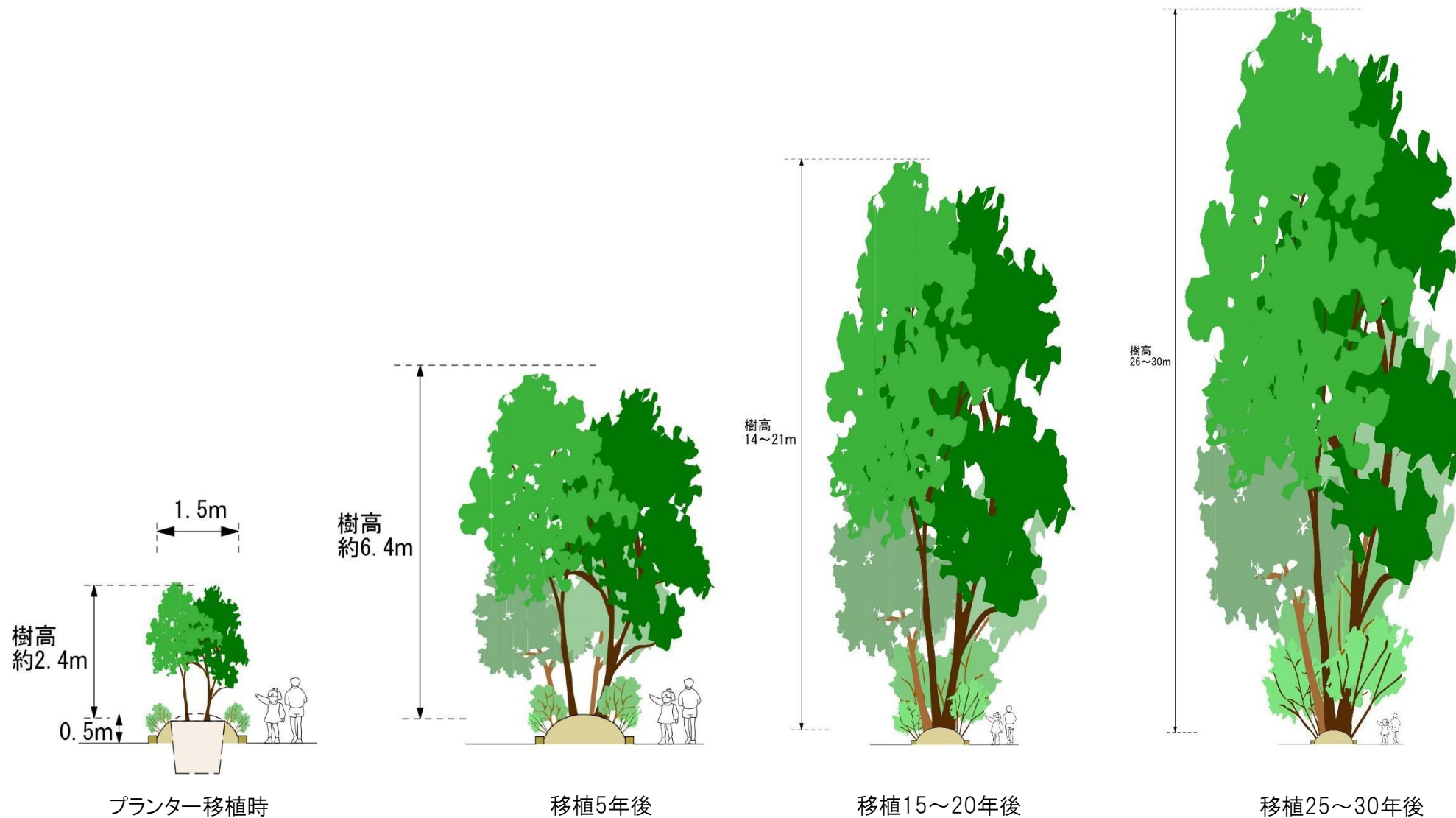
東京都の某小学校事例 森のたね

潜在自然植生種を用いた混植・密植方式
(スタジイ群集)



プランターでの経年変化の予測図

東京都の某小学校事例 森のたね



プランター移植後の経年変化の予想図

東京都の某小学校事例 森のたね



必要資材は、保全水準をクリアした上で“あるものを活かす”Silva式の理念のもと、廃棄材の再資源化、福祉貢献を徹底。SDGsの目標へ貢献（プランター5個分）。



① 土壌

- ・ 小学校の既存の土壌は、関東ローム層特有の褐色土壌
- ・ 上記のポテンシャルを活かし、素地の材料として活用



② 粒炭

- ・ 限界集落支援
 - ・ 再資源化
 - ・ 廃材を炭化依頼し、商品として購入。炭焼き部会を支援
- *約6万円の支援



③ 石灰

- ・ 廃棄予定のカキの殻を粉碎した石灰を再資源化
 - ・ 科学物の使用回避で児童への健康配慮
 - ・ 漁業を応援
- *約2千円の支援

東京都の某小学校事例 森のたね



SDGsの目標へ貢献（プランター5個分）



④ワラ

- ・ 第一次産業支援
- ・ 再資源化
- ・ 地産地消

*約2万円の支援



⑤刈草

- ・ 地域支援
- ・ 焼却処分予定の刈草を再資源化
- ・ 二酸化炭素排出量を削減

*二酸化炭素排出削減量 50ℓ



⑥ワラ縄

- ・ 再資源化
- ・ 焼却処分予定のワラ縄を引取り、二酸化炭素排出量を削減

*二酸化炭素排出削減量 30ℓ

東京都の某小学校事例 森のたね



2023年6月23日 児童との植樹式にて、『森のたね』へ植樹体験いただきました。 右写真：一年後



小学校低学年約30名へ『森』と『林』の違いを体感いただきました。



16名の保護者向けの講座では、宮脇昭先生の後継者であり、世界的にご活躍されるSilva相談役の藤原博士(理学)が講師をされました。



The Montessori School of Tokyo 43名 & Silva協力チーム 9名の総勢 52名で予定の土壌手当が完成！
沢山動いた後は、ランチタイムと森づくりの紙芝居を実施しました。

2024年3月12日



The Montessori School of Tokyo合計47名(教師7名、子ども39名、保護者1名) & Silva講師2名の総勢49名でいよいよ校庭の土壌づくりに着手！詰まって硬化した土壌を柔らかくするため、水脈づくり。

2024年9月25日



水脈づくりでは、環境の変化点へ高低差を演出することで気圧の変化を人為的に起こし、
雨水と空気が浸透し易い環境へ誘導します。



人工物・化学肥料を一切使わないため、本環境体験は、健康面へも配慮される上に単純作業のため、
児童でも簡単にノウハウを身に付けることができます。

2024年9月25日

資金調達戦略 実績を積み重ねる



30by30

Silvaは、本プロジェクトに賛同しています。

信頼を得るプロセス

- どの案件でも必ず植生調査を実施し、学術的根拠に基づく植生シナリオを基軸に。
- シルワは、環境省推進30by30アライアンスメンバー。
- ホームグラウンド『湘南国際村めぐりの森』は、国連が目ざす30by30自然共生サイトに2024年9月27日認定決定。
- 同地で参加費無料の公募イベントを年2回定例開催し、3000～5000本植樹。

認知度の向上



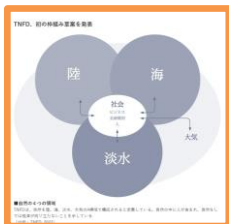
地方創生SDGs
官民連携
プラットフォーム

私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



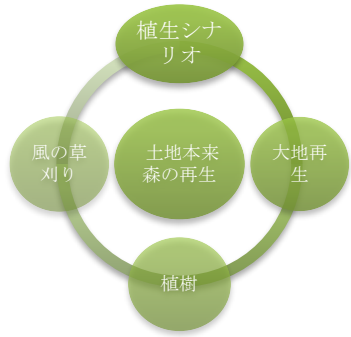
内閣府や省庁などの政府と行政のSDGs
推進事業へ賛同・参画

Silvaは、上記プロジェクトの賛同団体です。



2022年に制定された第三者評価基準の自然評価版『TNFD』
経産省推進TNFD企業評価基準のタスクフォースメンバー

資金調達戦略を積み重ねる



独自の創意工夫

- 混植・密植方式をより工夫した森づくりにて、コストカット30～50%達成。
- 焼却処分回避をした再資源化により、年間の二酸化炭素排出量を約150トン削減。
- 上記の創意工夫により理解者が増え、植樹祭への地元の参加者増加と人働支援獲得。
- 民間企業からのスピンオフ植樹イベントを年間3～5件、受託し緑化推進。

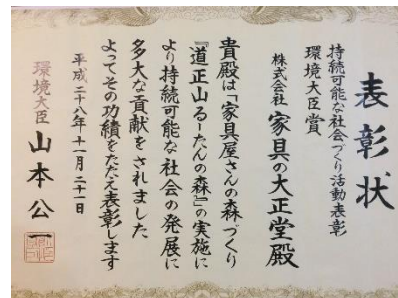


資金調達戦略を積み重ねる



リーダー育成と次世代育成

- 森づくり現場で年間約1500名の環境体験受け入れ。
- 独自の森林再生指導員認定制度によるリーダー育成
- 教育機関へ体験講座を年間プログラムで実施。
- オンライン講座やYouTube動画・ポッドキャストや出張講座で年間約1500名へ働きかける。



受賞歴

- クライアント案件で環境大臣省2016年11月受賞
- 環境省【低炭素社会貢献賞】2021年3月受賞
- 第56回林業関係広報コンクール【奨励賞】2023年6月受賞

資金調達戦略 実績と信頼



Silvaは、世界的に業界をリードする組織検証プロトコルを用いたCAF America の検証済み組織としての資格を2023年に取得。



Patagonia環境助成金プログラムの助成を3年連続獲得。2015年より現在まで、Patagonia有志一同が月に1回森づくりへ人働支援いただくパートナーシップをキープ。

資金調達戦略



助成金の獲得(一部をご紹介)

- 公益社団法人 国土緑化推進機構とパートナーシップ！
『湘南国際村めぐりの森緑化推進』が直接助成事業へランクアップ
- 教育機関への育成に特別公募事業（つながる・つなげる・子ども若者応援事業）交付金も獲得。



民間企業の支援(一部をご紹介)



- 三機工業株式会社の環境保全活動支援を省エネ設備の工事に絡めた「SANKI YOUエコ貢献ポイント制度」を展開されており、毎年一定のご寄付を獲得し、30 by 30自然共生サイト保全費へ充当
- 東急建設株式会社より、環境講演会の講師役のご依頼や教育機関の学校環境保全林プロジェクトを受託。



広報協力(一部をご紹介)

- 株式会社サンケイアイより、YouTube動画配信の協力を得て、毎年2回行っている定例の植樹祭の様子を配信。



お問い合わせについて



森づくりをご一緒にしませんか？お気軽にお問い合わせください。



植樹祭などのイベント参加
問い合わせ



調査・講座や講演会依頼
問い合わせ



個人・法人
会員登録申込み



寄付金申込み



無料体験が可能な
ボランティア隊への登録



森林再生指導員研修
受講申込み

Silva問合せ先 メール: info@silva.or.jp